

## 研究科履修ガイド2020年より抜粋：＜博士後期課程への進学要件＞

### 【2021年度進学者】

修士課程を修了した者が博士後期課程に進学するにあたっては、修士課程修了に必要な履修要件に加えて、研究者養成コース・専修コースの別なく以下の4つの要件を課す。

#### ＜博士後期課程への進学要件＞

- コア科目8単位以上を、「B」以上の成績で修得していること。(注1)
- 上記の進学要件で用いたコア科目8単位分を除き、その他400番台ないし500番台の経済学研究科講義科目10単位以上を、以下の算出方法により、平均3.0以上で修得していること。算出方法は、A+を4.3、Aを4.0、Bを3.0、Cを2.0とし、単位数により加重平均をとるものとする。(注2)
- 博士後期課程進学資格試験(コンプ)に1科目以上合格していること。
- 博士後期課程進学試験に出願し、これに合格すること。

(注1)異なる教員による同一科目の履修によって「A」と「B」の成績を得たとしても、博士後期課程への進学要件である「成績がB以上の科目を8単位以上修得」という要件を満たしてはいない点に注意すること。ここでいう8単位とは、科目名の異なるコア科目から2科目修得することを意味する。例えば、「上級マクロ経済学(教員1)」で「A」の成績を、「上級マクロ経済学(教員2)」で「B」の成績を修得しても、「成績がB以上の科目を8単位以上修得」したことにはならない。この場合、上級マクロ経済学以外のコア科目(4単位)で「B」以上の成績を修得する必要がある。

(注2)2003年度から2016年度の成績のうち、Dは1.0とする。

以上は博士後期課程進学の一般的要件である。進学後に指導を受けたい教員のゼミに所属するためには、以上の要件に加えて、それぞれの教員が個別に課す要件(コア科目の履修、成績、進学資格試験の科目選択等に関する要件)を満たしている必要がある。詳しくは、「3.2. 博士後期課程のゼミ履修」および「10. ゼミ履修案内」を参照のこと。

#### ＜博士後期課程進学資格試験(Comprehensive Examination)＞

博士後期課程進学資格試験(Comprehensive Examination、通称「コンプ」)とは、原則として経済学研究科の修士課程在学者を対象として、博士後期課程進学に必要な基礎学力の有無を調べるための筆記試験であり、第1回(8月～9月頃)と第2回(2月～3月頃)の二度行われる。コンプの科目は、①ミクロ経済学、②マクロ経済学、③政治経済学、④統計学・計量経済学、⑤経済史の5科目である。博士後期課程に進学希望の学生は、5科目のうち少なくとも1科目以上に修士課程2年次修了までに合格しなければならない。ただし、各科目の受験可能回数は3回までである。各科目の出題範囲や合格の目安は、第1回のコンプについては5月頃、第2回のコンプについては10月頃に公表される。なお、過去問題は経済学研究科HP(<http://www.econ.hit-u.ac.jp>)に掲載されている。

コンプの受験申込みは7月と11月に行われる。7月に第1回のコンプ、11月に第2回のコンプの受験票が交付される。受験を希望する者は、指定された期間内に受験科目の届出をするとともに受験票の交付を必ず受けておくこと。大学院掲示場の掲示に十分に注意すること。

#### ＜博士後期課程進学試験＞

修士課程から博士後期課程への進学を希望する者は、所定の進学要件を満たしたうえで、博士後期課程の研究テーマを中心とする試験(一般的・基礎的知識、および修士論文の内容に関する項目を含む)で

ある「博士後期課程進学試験」を受けなければならない。この試験は例年 2 月末または 3 月初めに実施される。

なお、博士後期課程進学生募集要項は、例年 6 月頃に配付を開始するので、経済学研究科事務室または経済学研究科 HP (<http://www.econ.hit-u.ac.jp>) から要項を入手し、所定の期間に出願を済ませておくこと。口述試験は原則として修士論文審査員（「4. 修士課程学位論文の提出と最終試験」を参照）および指導教員以外の審査員の 2 名で行われる。口述試験審査員は原則として経済学研究科専任教員である。受験者は、口述試験審査員の希望を、所定の「修士課程修了試験及び博士後期課程進学試験予定に関する報告書」（「4. 修士課程学位論文の提出と最終試験」を参照）に最大 3 名まで希望順に書くことができる。審査員の希望は出来るだけ配慮するが、人員等の制約によって意に添えない場合があることに留意されたい。